

## 行政手続法・行政手続条例適用の不利益処分に係る処分基準

	所管課名	食品・生活衛生課	整理番号	12-1
処分の種類	と畜場の設置の不許可、処理獣畜の制限			
根拠法令条例等・条項	と畜場法第5条			
処分の概要	と畜場の設置の不許可 と畜場で処理することができる獣畜の種類及び1日当りの頭数の制限			
	<p>未設定(法令等の規定において言い尽くされているため)</p> <p>【参考】</p> <p>○と畜場法第5条 第5条 都道府県知事は、前条第1項の規定による許可の申請があつた場合において、当該と畜場の設置の場所が次の各号のいずれかに該当するとき、又は当該と畜場の構造設備が政令で定める一般と畜場若しくは簡易と畜場の基準に合わないとき、同項の許可を与えないことができる。</p> <p>一 人家が密集している場所 二 公衆の用に供する飲料水が汚染されるおそれがある場所 三 その他都道府県知事が公衆衛生上危害を生ずるおそれがあると認める場所</p> <p>2 都道府県知事は、公衆衛生上必要があると認めるときは、前条第1項の規定による許可を受けたと畜場(以下単に「と畜場」という。)につき、その構造設備の規模に応じ、当該と畜場において通例として処理することができる獣畜の種類及び1日当りの頭数を制限することができる。</p> <p>○と畜場法施行令第1条 第1条 と畜場法(以下「法」という。)第5条第1項の規定による一般と畜場の構造設備の基準は、次のとおりとする。</p> <p>一 係留所、生体検査所、処理室、冷却設備、検査室、消毒所、隔離所及び汚物処理設備並びに当該と畜場内において食肉(食用に供する内臓を含む。第5号において同じ。)の取引が行われ、かつ、都道府県知事(保健所を設置する市にあつては、市長。以下同じ。)が特に必要があると認めた場合には、取引室を有すること。</p> <p>二 係留所には、生後1年以上の牛及び馬については1頭ごとに、その他の獣畜については適宜に、これを係留し、又は収容することができる区画が設けられており、かつ、その床は、不浸透性材料(石、コンクリートその他血液及び汚水が浸透しないものをいう。以下同じ。)で築造され、これに適当なこうばいと排水溝が設けられていること。</p> <p>三 生体検査所は、次の要件を備えること。</p> <p>イ 床は、不浸透性材料で築造されていること。</p> <p>ロ 獣畜の計量及び保定に必要な設備が設けられていること。</p> <p>ハ 法第14条第1項の検査の事務に従事する者の手指及びその者が使用する器具の洗浄又は消毒に必要な設備が設けられていること。</p> <p>ニ 洗浄又は消毒に必要な設備は、第8条第2項に規定する措置を講ずるために必要な数が適当な位置に設けられていること。</p>			

処分基準  
(未設定の場合  
はその理由)

- 四 処理室は、次の要件を備えること。
- イ と室、病畜と室、内臓取扱室及び外皮取扱室に区画され、各室に、直接処理室外に通ずる出入口が設けられていること。
  - ロ 床は、不浸透性材料で築造され、これに適当なこうばいと排水溝が設けられていること。
  - ハ 内壁は、不浸透性材料で築造されている場合を除き、床面から少なくとも1.2メートルまで、不浸透性材料で腰張りされていること。
  - ニ 十分に換気及び採光のできる窓が設けられていること。
  - ホ 内臓検査台、内臓処理台、内臓運搬具、と肉懸ちよう器及び計量器が備えられていること。
  - ヘ 獣畜のとさつ又は解体を行う者及び法第十四条第二項又は第三項の検査の事務に従事する者の手指並びにこれらの者が使用する器具の洗浄又は消毒に必要な設備が設けられていること。
  - ト 洗浄又は消毒に必要な設備は、法第九条に規定する措置及び第八条第二項に規定する措置を講ずるために必要な数が適当な位置に設けられていること。
  - チ 洗浄又は消毒に必要な温湯を十分に供給することのできる給湯設備が設けられていること。
  - リ 飲用に適する水を十分に供給することのできる給水設備が設けられていること。
- 五 冷却設備は、食肉を十分に冷却することのできるものであること。
- 六 検査室には、検査台その他検査に必要な器具が備えられ、かつ、給水設備が設けられていること。
- 七 消毒所には、獣畜の部分等であつて、病畜を伝染させるおそれがあると認められるものの消毒に必要な設備が設けられ、かつ、その床は、不浸透性材料で築造されていること。
- 八 隔離所には、隔離された獣畜の汚物及び汚水を消毒することのできる設備が設けられており、かつ、その床は、不浸透性材料で築造されていること。
- 九 汚物処理設備は、次の要件を備えること。
- イ 汚物だめ並びに血液及び汚水の処理設備を有すること。ただし、血液及び汚水を終末処理場のある下水道に直接流出させると畜場にあつては、血液及び汚水の処理設備を設けないことができる。
  - ロ 汚物だめは、処理室及び取引室から適当な距離を有し、かつ、不浸透性材料で築造され、適当な覆いが設けられていること。
  - ハ 血液及び汚水の処理設備は、処理室及び取引室から適当な距離を有し、かつ、血液及び汚水の浄化装置を有すること。
  - 十 取引室は、次の要件を備えること。
- イ 床は、不浸透性材料で築造され、これに適当なこうばいと排水溝が設けられていること。
  - ロ 内壁は、不浸透性材料で築造されている場合を除き、床面から少なくとも一・二メートルまで、不浸透性材料で腰張りされていること。
  - ハ 十分に換気及び採光のできる窓が設けられていること。
  - ニ と肉懸ちよう器及びハンガーレールが備えられていること。
  - ホ 飲用に適する水を十分に供給することのできる給水設備が設けられていること。
- 十一 その他都道府県(保健所を設置する市にあつては、市。以下同じ。)が条例で定める構造設備を有すること。

(簡易と畜場の構造設備の基準)

第二条 法第五条第1項の規定による簡易と畜場の構造設備の基準は、次のとおりとする。

- 一 処理室、検査所、消毒所及び汚物処理設備並びに生体検査及び隔離を行うために必要な敷地を有すること。
- 二 処理室は、次の要件を備えること。
  - イ 内臓及び外皮をそれぞれ各別に取り扱うことができるように、適当な区画が設けられていること。
  - ロ 床は、不浸透性材料で築造され、これに適当なこうばいと排水溝が設けられていること。
  - ハ 十分に換気及び採光のできる窓が設けられていること。
  - ニ 内臓検査台、と肉懸ちよう器及び計量器が備えられていること。
  - ホ 飲用に適する水を十分に供給することのできる給水設備が設けられていること。
- 三 検査所には、検査台及び給水設備が設けられていること。
- 四 消毒所には、消毒に必要な設備が設けられており、かつ、その床は、不浸透性材料で築造されていること。
- 五 汚物処理設備は、次の要件を備えること。
  - イ 汚物だめ並びに汚水だめ又は血液及び汚水の処理設備を有すること。ただし、血液及び汚水を終末処理場のある下水道に直接流出させると畜場にあつては、汚水だめ並びに血液及び汚水の処理設備を設けないことができる。
  - ロ 汚物だめ及び汚水だめは、処理室から適当な距離を有し、かつ、不浸透性材料で築造され、適当な覆いが設けられていること。
  - ハ 血液及び汚水の処理設備は、処理室から適当な距離を有し、かつ、血液及び汚水の浄化装置を有すること。

○と畜場法施行細則第3条

(と畜場を設置してはならない場所)

第3条 法第五条第1項第3号の規定による公衆衛生上危害を生ずるおそれがあると認める場所とは、次に掲げる場所をいう。ただし、第2号又は第3号に掲げる場所であつても、知事が、設置しようとする畜場の構造設備等が十分公衆衛生上の危害を防止できると認めるときは、この限りでない。

(1) 排水が十分でない場所

(2) 国道、県道その他重要な道路、鉄道若しくは軌道又はごみ処理施設若しくはし尿処理施設から100メートル以内の場所

(3) 学校、公園、病院等多数公衆の集合する場所から100メートル以内の場所

2 前項第2号又は第3号の規定による距離は、と畜場のとさつ解体施設、懸肉室、枝肉取引室又は冷蔵施設に至る最短距離をもつて測定するものとする。

○一般と畜場の構造設備の基準に関する条例

と畜場法施行令(昭和28年政令第216号)第1条第11号の規定による一般と畜場の構造設備の基準は、次に掲げるとおりとする。

(1) 係留所、消毒所及び隔離所には、洗浄設備が設けられていること。

(2) 処理室を有する建物の周囲の地面は、幅1メートル以上不浸透性材料で築造され、適当なこう配が設けられていること。

(3) と畜検査員室、従業員室及び更衣室が設けられていること。

(4) 獣畜を運搬する車両を洗浄する設備が設けられていること。

(5) 便所は、処理室から直接出入りできない構造とし、かつ、防そ及び防虫の設備並びに流水式の手洗設備が設けられていること。

(6) と畜場の周囲には、高さ1.8メートル以上の塀が設けられていること。

基準の制定根拠

—